

◆ マテリアリティへのアプローチ

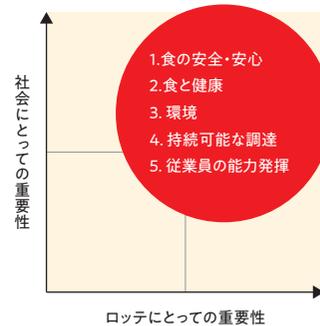
当社は、創業以来一貫して、「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(獨創性)」「クオリティ(最上の品質)」という3つのロetterバリューを全ての企業活動の基本とし、お客様をはじめ、地域や社会に新たな価値を提供することで、成長し続けてきました。近年では、持続可能な社会・環境の実現に貢献するために、社会に及ぼす影響や事業活動における重要性をもとに、マテリアリティ(重要課題)を設定して事業活動を行っています。

STEP1

マテリアリティの整理

持続可能な社会・環境の実現に貢献するために、事業活動を通じて取り組むべき課題を明確化しました。はじめに、ISO26000*の7つの中核主題をもとに課題を把握し、事業活動において重要な課題を抽出しました。その後、外部の有識者と当社に期待される取り組みについて意見交換を行い、マテリアリティを5つに整理しました。

* ISO26000:ISO(国際標準化機構)が2010年11月に発行した、社会的責任に関する国際ガイドライン規格



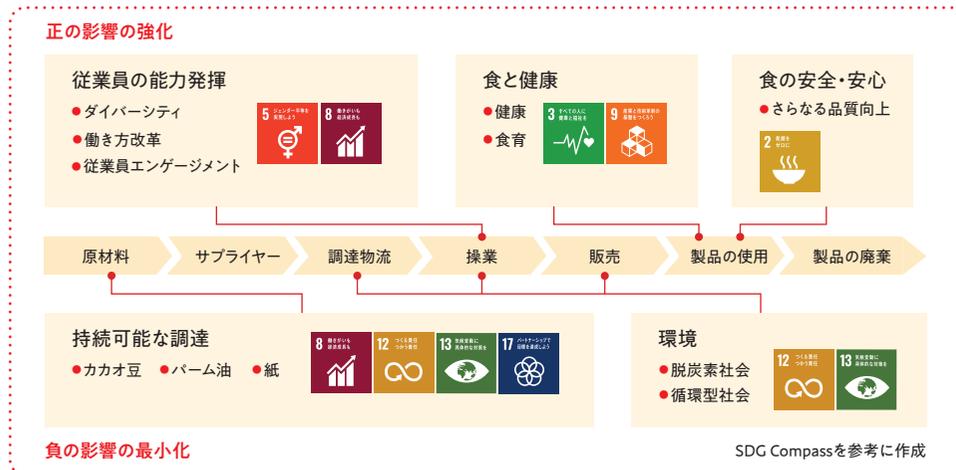
- 1
食の安全・安心
- 2
食と健康
- 3
環境
- 4
持続可能な調達
- 5
従業員の能力発揮



STEP2

バリューチェーンにおけるマテリアリティマッピング

2015年に国連が採択した持続可能な開発目標(SDGs)は、世界中の政府、地域社会、企業に対し広く協力を求める、人類と地球の繁栄の実現を目指す行動計画です。SDGs達成とよりよい世界の構築に向けて、当社では、各マテリアリティがバリューチェーン上で、「正の影響の強化」もしくは「負の影響の最小化」に貢献するかを特定しました。



SDG Compassを参考に作成

STEP3

ESG 中期目標の策定

マテリアリティに具体的に取るため、ESG中期目標を策定しました。これらはSDGsへの貢献を考慮して策定しており、SDGsを構成する17のゴールのうち、マテリアリティごとに当社として貢献できるゴールを定め、重点的に取り組んでいきます。また、達成に向けて毎年進捗を確認し、情報公開に努めていきます。



STEP4

ステークホルダーとの対話

ステークホルダーとの対話を継続的に行っており、いただいたご意見はマテリアリティやESG中期目標の見直し、情報開示の拡充などサステナビリティ活動へ反映しています。

